

※第2回部会資料再掲

美術館

1. 大衆芸術の変化からの分野の検討
2. 市内文化施設や他都市の専門ミュージアムとの棲み分け

博物館

1. 全体の展示テーマの見直し
2. 今後扱うべき新たなテーマの検討（災害史・産業史・平成史など）

共通

1. 地域連携活動のあり方
2. 市民連携活動のあり方
3. 観光振興への寄与のあり方

- ▶ これまでの蓄積を生かした「高度な専門性をもちつつも総合的なミュージアム」との御意見。
- ▶ 地域活動連携型とするべきとのご意見。

●第2期川崎市文化芸術振興計画

本市では、「川崎市文化芸術振興条例」に基づき、「川崎市文化芸術振興計画」を策定し、文化芸術振興施策を総合的かつ計画的に推進している。

平成26(2014)年3月に策定した「第2期川崎市文化芸術振興計画」が、計画期間の中間年を迎えるにあたり、「文化芸術振興基本法」の改正（平成29(2017)年）や「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」の制定（平成30(2018)年）等、文化芸術を取り巻く状況変化に的確に対応するため、平成31(2019)年3月に計画の改訂（令和5(2023)年度までの5年間）を行い、本市の文化芸術振興施策を推進している。

計画の体系

第2期計画では、振興条例の理念に基づく4つの基本方針と、川崎の文化芸術振興の方向性として4つの「目指すまちの姿」を定めている。

<基本方針>

- 1 文化芸術の振興による創造的で持続的なまちづくりの推進
- 2 市民の主体的な文化芸術活動の尊重と支援
- 3 関係機関等との連携による文化芸術の振興と地域づくり
- 4 文化芸術活動を通じた都市・地域間の交流

<目指すまちの姿>

- 「川崎の文化」の発信による国際的な文化都市
- まちなかや生活に文化芸術が息づく魅力あるまち
- 文化芸術の担い手が育つ好循環のまち
- 誰もが文化芸術を楽しめるまち

- 基本目標1 文化芸術や地域の特性・資源を活かしたまちづくり
- 基本目標2 人材の育成と協働による文化芸術の振興
- 基本目標3 市民が文化芸術に触れる環境・活動できる環境の整備

●第2期川崎市文化芸術振興計画

基本目標1 文化芸術や地域の特性・資源を活かしたまちづくり

音楽や映像、歴史や伝統文化、若者文化など、市内の文化芸術資源を活かしたまちづくりを推進するとともに、その魅力を積極的に国内外に発信し、市民の地域への愛着を増進するとともに都市イメージの更なる向上を図る。

取組例



「かわさき産業ミュージアム」

川崎区全域を展示場に見立て、それらを回るバスツアーやウォーキングイベントを実施したり、ガイドブックを作って配布したりしている。



「多摩川エコミュージアム」

多摩川流域の環境と文化の保全・継承に関する普及・啓発事業、まちづくりの提案・支援事業、施設の運営・管理事業や多摩川の河川環境整備と保全に関する行政との連携事業などを行う。

基本目標2 人材の育成と協働による文化芸術の振興

文化芸術を支える人材の発掘・支援、子どもや若者が文化芸術に触れ・楽しむ環境づくりを通じ、持続的に文化芸術が発展するまちづくりを進める。また、地域の人材、企業、関係機関等と行政が各々も役割のもと連携し、文化芸術振興と地域活性化を図る。

取組例



「映像のまち・かわさき推進フォーラム」

子どもたちの映像づくりサポートや、映像を使ったイベントの開催・協力支援、市内の映像・ロケに関する情報発信などを行う。



かわさき市美術展、「岡本太郎現代芸術賞」展

若手芸術家の発掘や発表の場の提供、若手芸術家による展覧会やワークショップの実施。

基本目標3 市民が文化芸術に触れる環境・活動できる環境の整備

市民が様々な文化に触れ、多様な文化芸術活動ができるよう、美術館やホール等の文化施設を効果的に運営するとともに、誰もが文化芸術を楽しめる機会を増やすことにより、魅力あるまちづくりにつなげている。

取組例



文化施設等の効果的な運営

博物館・美術館施設におけるアウトリーチ事業やミュージアム川崎シンフォニーホールによる他施設や学校等でのアウトリーチ事業による、多くの方への鑑賞機会を提供する取り組みの実施。



「Colors かわさき」展

障がいの有無に関わらず、一つ一つの作品の魅力をダイレクトに伝える展覧会。

## 1. 基本的な考え方

### 市民ミュージアムのめざす姿（現状） ※川崎市市民ミュージアムの新たな取組方針（平成26年度）より

- ・市民ミュージアムの強みや川崎の持つポテンシャルを活かし全国に発信できるミュージアム
- ・市民に親しまれる川崎発の市民文化の伝承と創造の発信拠点としてのミュージアム
- ・生活にうるおいをもたらす、地域の活性化に貢献する拠点としてのミュージアム

### 市民ミュージアムの役割（現状） ※第2回部会資料再掲

- ・市民が文化芸術を享受する場として機能するとともに、市民の文化活動の拠点としての役割を担う
- ・文化・芸術を生かしたまちづくりに貢献する
- ・新たな交流の場としての市民ミュージアムの価値を高める
- ・さまざまな市民が文化芸術に触れる、創造する機会を創出する

### （1）市民アンケートの結果より

#### □博物館及び美術館一般への関心度

- ・回答者の過半数にあたる62.2%が「ある」「どちらかと言えばある」と回答。20～30代は約63%、40代以上では67.0%（70代除く）になり、程度の違いはあるが多くの人が博物館・美術館に関心を持っている。

#### □市民ミュージアム来館経験と「行ったことがない理由」

- ・「行ったことがある」のは37.8%、「行ったことがない」「知らない」は30%前後  
「行ったことがない」理由は「何があるかわからない」「行きにくい場所にある」「時間がない」

#### □来館にあたって重視する点

- ・企画展の内容60.5%、常設展の内容43.0%、交通アクセス※36.0%が上位、次いでカフェ・ショップ等、入館料、建物全体の雰囲気30%前後で続く。

※交通アクセス：施設までの所要時間や交通手段

### （2）委員からのこれまでの御意見

- ・川崎は「都市と人間」というビジョンがある。これは大事だと思う。川崎から世界に発信していくテーマでもある。現在ここまでグローバル化していろいろな人が共存する社会が地域でできて、それが当たり前になっている中、川崎がミュージアムを起点にしながらその点を社会と追いかけていく。そういった場になればいいと思う。
- ・地域をつなぐハブとしてのミュージアムという視点からソフト面の質的向上・拡充に着手することも、非常に重要であると考えている。
- ・今は総合性や、専門性を乗り越えたトータルな視点を持ったミュージアムの方がむしろ求められており、川崎がかつて作ったモデルというのは実は将来性があるということを言いたい。

- ・高度な専門性を持ちつつも総合的なミュージアムが望まれるというご意見を踏まえ、今後どのような点を強調させていくことが望まれるか。
- ・アンケート結果と委員からの御意見を踏まえて、市民ミュージアムの役割として現状から強化させる内容、または追加する内容は何が考えられるか。

## 2. 事業の考え方

### 市民ミュージアムの事業（現状） ※第2回部会資料再掲

- ・考古、歴史、民俗、絵画、工芸、漫画、写真、ポスター、映像等に係る実物、複製、模型等の資料及び作品の収集、保管、展示等
- ・資料等に関する講座、講演会、映写会、研究会等を開催
- ・資料等に関する説明及び助言
- ・市民の文化活動の助長、奨励及び指導
- ・資料等に関する専門的及び技術的な調査研究並びに解説書、目録、年報、調査研究報告書等の作成及び頒布
- ・博物館、図書館、学校、研究所その他の関係機関と協力し、刊行物及び情報の交換、資料等の相互貸借等
- ・施設及び設備の利用に供する

### （1）市民アンケートの結果より

#### 博物館及び美術館への志向・ニーズ（あると良いと思うもの）

	博物館	美術館
あると良いと思う展示	川崎市ゆかりの文化財や資料の展示が44.6%で最も多く、体験型展示が42.3%、話題性のある展示が40.4%、体感型展示38.3%及び博物館・美術館連動展示35.3%。	有名な作家や作品43.3%、川崎市ゆかりの作家や作品42.2%で他の選択肢に比べやや多い。新進気鋭の作家は20代48.8%に対して60代31.0%、70代23.7%となるなど、歴史とアート作品の融合とともに若い層が多い。
収集すべき資料	「川崎市の近・現代」が48.5%で最も多い。「有名な文化財・資料」は29.4%で7選択肢中5番目。	絵画・彫刻・陶芸が49.0%で最も多く、次いで川崎市ゆかりの作家や作品が39.7%で続く。写真31.7%・漫画28.1%・映画28.1%・映像28.3%と概ね30%前後。
あると良いと思う企画展	川崎市の企業との連携42.0%、川崎の歴史38.6%が上位となり、商店街・施設連携33.4%、世の中の話題に対応したテーマ31.7%、歴史とアートの融合29.0%と続く。	川崎市ゆかりの作家や作品が40.0%で最も多く、次いで有名人やタレント32.3%、新進気鋭の作家29.8%と続く。年齢や関心度により違いがみられる。
取り組むべき活動	子ども向けプログラム44.9%と川崎市の歴史・文化・民俗の調査研究37.8%、企業連携36.6%が多い。	子ども向けプログラムが42.2%で最も多く、次いで市民向けプログラムが34.2%、川崎市ゆかりの作家等の研究33.9%、学校での地域学習サポート32.2%と続く。
展示室以外であると良い機能	心地よくリラックスできるスペースが53.7%で最も多く、次いで緑豊かで解放感のある環境51.8%、カフェ・レストラン・ショップ47.1%が続く。子ども連れのための施設やプログラムは年齢により違う。	

### （2）委員からのこれまでの御意見

- ・修復に何年かかるかは不明だが、その復興とか復旧の過程そのものを新しいミュージアムが積極的に見せていくことが重要。
- ・連携する相手方に多摩川エコミュージアムが入っていないが、当然関わる可能性は出てくると思う。川をテーマにするのは重要になるし、今までそういうものを大事にしてきた取組みとの連携の強化がさらに重要になってくる。
- ・ミッションや9つの分野の問い直しが必要では。9つの分野というのは通常の博物館ではあまりない。それがミュージアムの経緯でそれぞれの分野を複合化してしまったからこういう形になってしまっている。やはり、9つの分野というのがネックになっているんだと思う。

- ・アンケート結果から博物館と美術館の連動した展示を求める声があるが、今後9つの分野のあり方として、どのように考えることが望ましいか。
- ・これまでの市民ミュージアムの活動・市内の市民活動を踏まえて、地域連携、市民連携等、市民ミュージアムとして今後、力を入れるべき事業はどういった内容が考えられるか。